

# あの日々の生活を希う

風ユニット

## 小野田 保江様の身体状況

○入所時から右下肢の麻痺があり曲げることが困難  
→入所時は右下肢に麻痺はあるものの歩行ができていました。しかし、熱発後から右足を動かす機会が減ってしまった為熱発前より右ひざを曲げることが困難になりました。

○日中に傾くことがある。  
→主に右に傾くことが多く立位が取れることもあるが右の傾きがとても強い場合は立位が取れないこともある。

○認知機能など  
→認知はしっかりしており、通院の日程をある程度記憶しており、前日に起きたことなど覚えていることが多い。



# 支援を行うに至った経緯について

**対象者(Who)** 小野田保江様

**支援開始(When)** 11月中旬ごろ

**どこで(Where)** 竜爪園風ユニットで

## 経緯(Why)

入所時ご自身で歩行器を使用して歩けていましたが、突然の熱発により体調を崩してしまいました。

その際に右ひざから足にかけて腫れが生じ歩行することが難しくなりました。

その後熱発も治まり右ひざから足にかけての腫れは治まるものの暫く歩行は控え車いす対応としました。

暫くしてご本人より「もう一度歩きたい」と訴えがあり支援に至りました。

## 目標(What)

もう一度歩行器を使用して歩けるようになりたい

## 方法(How)

機能訓練士さんが実施したところ長時間歩くには長時間の立位を維持できる体力が必要であること。

毎日の立位時に長く立位保持ができるように訓練を行います。

## 支援を行うに至った経緯について(2)

対象者 小野田 保江様

### 入所時の様子

ご自身の歩行器を使用してフロア内を歩くことができていました。通院など長距離を移動される時は車椅子を使用していましたが、フロア内を移動される際は基本的に歩行器を使用して歩かれてました。

→9月下旬に39.0℃以上の熱発や右ひざから足にかけての腫れが暫く続いていました。その後回復はしたものの右ひざから足にかけての腫れは治まらず再度熱発を繰り返してました。

→10月中旬ごろに腫れは治まりましたがが腫れが引かない時期は車いすを使用し歩行器を使用して歩くことはありませんでした。

その後はフロアでは車いす対応の為椅子への移乗はありませんでした。



## 右足の腫れの変化



9月下旬ごろ



12月下旬ごろ

## 支援を行うに至った経緯について(3)

10月頃にご本人より「歩いてみたい」と訴えがあり11月初旬に歩行訓練を開始。



歩行訓練を開始して機能訓練士の見解では下肢筋力の低下により長時間の歩行が困難であること



機能訓練士より、日中に立位保持が長時間できるように訓練を行うことで下肢筋力を鍛え歩行を安全に行うようにしていくこと

立位保持を長時間できるようにするにはどのような方法か



日中、フロアで過ごされる際に椅子で過ごしていただくこと。

また、車椅子から椅子への乗時に立位の訓練を行い長時間保持できるようにしていくこと。

## 支援を行った中で注意したこと

○日中に傾きが見られる場合は長時間の立位は行わず直ぐに移乗しました。

○右足の麻痺がある為、足の位置には気を付けてより立位が取りやすいように心がけました。

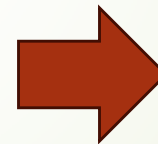
○なるべく職員が近くにおいて膝崩れが起きた際に転倒しないように支えていました。

○移乗の際は足の位置や椅子、車椅子の位置に注意をしました。

# 移乗の様子



車椅子から椅子への移乗



椅子から車椅子への移乗

# 支援結果

支援前：5秒程度



2月上旬：60秒以上

現在は歩行訓練は行っていませんが、長時間の立位保持を念頭に置いています。  
本人も歩くために長時間の立位保持訓練は必要であることを理解しており主に車椅子から椅子への移乗や椅子から車椅子での移乗、トイレ誘導時などに訓練を行っています。  
しかし、体調を崩されることがある為体調が芳しくない日は行わず無理のない範囲で素早く移乗を行っています。

## 現在も継続中

小野田様は、「またいつか歩いてみたいけど、自信が無いね。」  
「歩行訓練はやってみたい。」と仰っていました。

## 支援を行ってみて(感想)

今回支援を行ってみて感じたことは、大きく3つに分けられます。

1.思った  
通りには  
行かない  
こと

2.段取り  
の大切さ

3.自分自  
身の考え  
の変化



ご清聴ありがとうございました

